

平成26年度「新規採用職員研修」

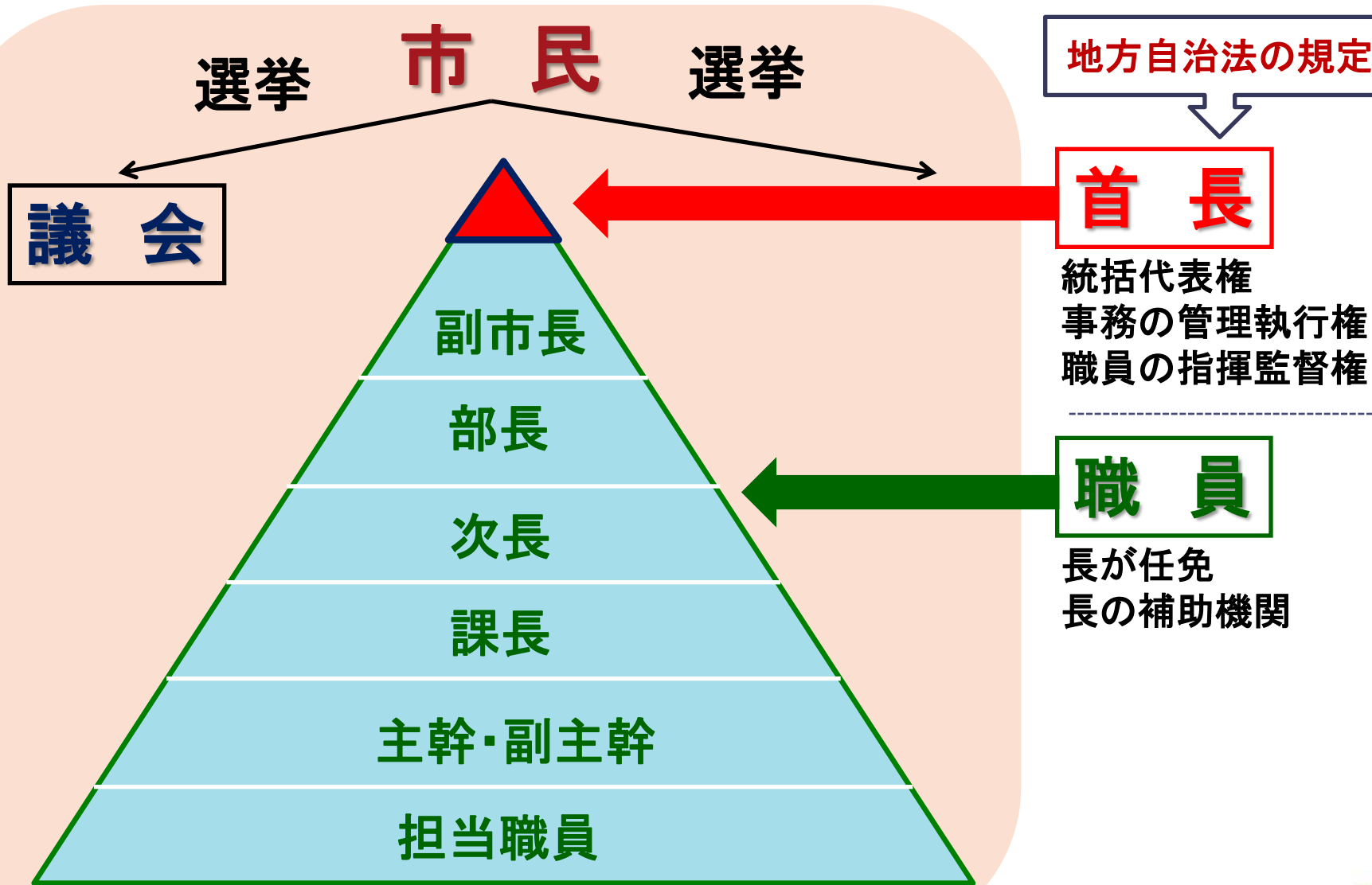
市民と市役所

津市長 前葉 泰幸



1 市職員と市長

① 選挙と任免



1 市職員と市長

② 市職員の論理

首 長

選挙で選ばれた唯一の政治家で、市民に最も近い存在

市民の意向を踏まえた政策の実施とそれを実現するための改革を進める

職 員

地方公務員としての身分保障を受け独特の流儀を持つ存在

「現状維持」
(新しいことはやりたくない)

「前例踏襲」
(前回と同じことしかしない)

「過剰防衛」
(批判されたくない)



1 市職員と市長

③ 市長の過去の経験を市政の付加価値に

① 20年の公務員経験

⇒公務員は、そう考えて当然

② うち12年の自治体勤務

⇒他の自治体はもっといいやり方
をしている

③ うち8年の国勤務

⇒国からみると別の受け止め方
をされてしまう

④ 5年余りの民間勤務

(うち外資系4年)

⇒民間では通用しない



市長個人の過去の経験から得られる付加価値を組織として活用

	国	自治体	民間
1985		群馬県 (地方債、企業誘致)	
1987	自治省 (人事・国会、地方債)		
1990		熊本県 (文化企画、地域振興、税務、財政)	
1995	国土庁 (防災)		
1997	自治省 (固定資産税)		
1998		京都市 (政策企画)	
2000	自治省 (企画)		
2001		宮城県 (企画、総務)	
2004	公営企業金融公庫 (資金)		
2006			デクシア銀行 (金融営業) 地方公共団体金融機構 (審査)
2011		津市長	



1 市職員と市長

④ 市長は民意と役所の論理の橋渡し役

組織のトップとして高みを目指す

①<政治家>として

⇒市民が求め期待する施策を実現するために

②<市職員とは異なる付加価値の持ち主>として

⇒役所の流儀の不都合を是正するために

③<組織のトップ>として

⇒経営資源である職員力を最大限に発揮させるために

民意に合致した市役所



2 市民と市役所

① 市民との対話

市民



担当職員

主幹・副主幹

課長

次長

部長

副市長

即答・即応し実現
する市役所づくり

最前線＝最先端
≠最末端
に立つ市職員の
総力

市役所の力

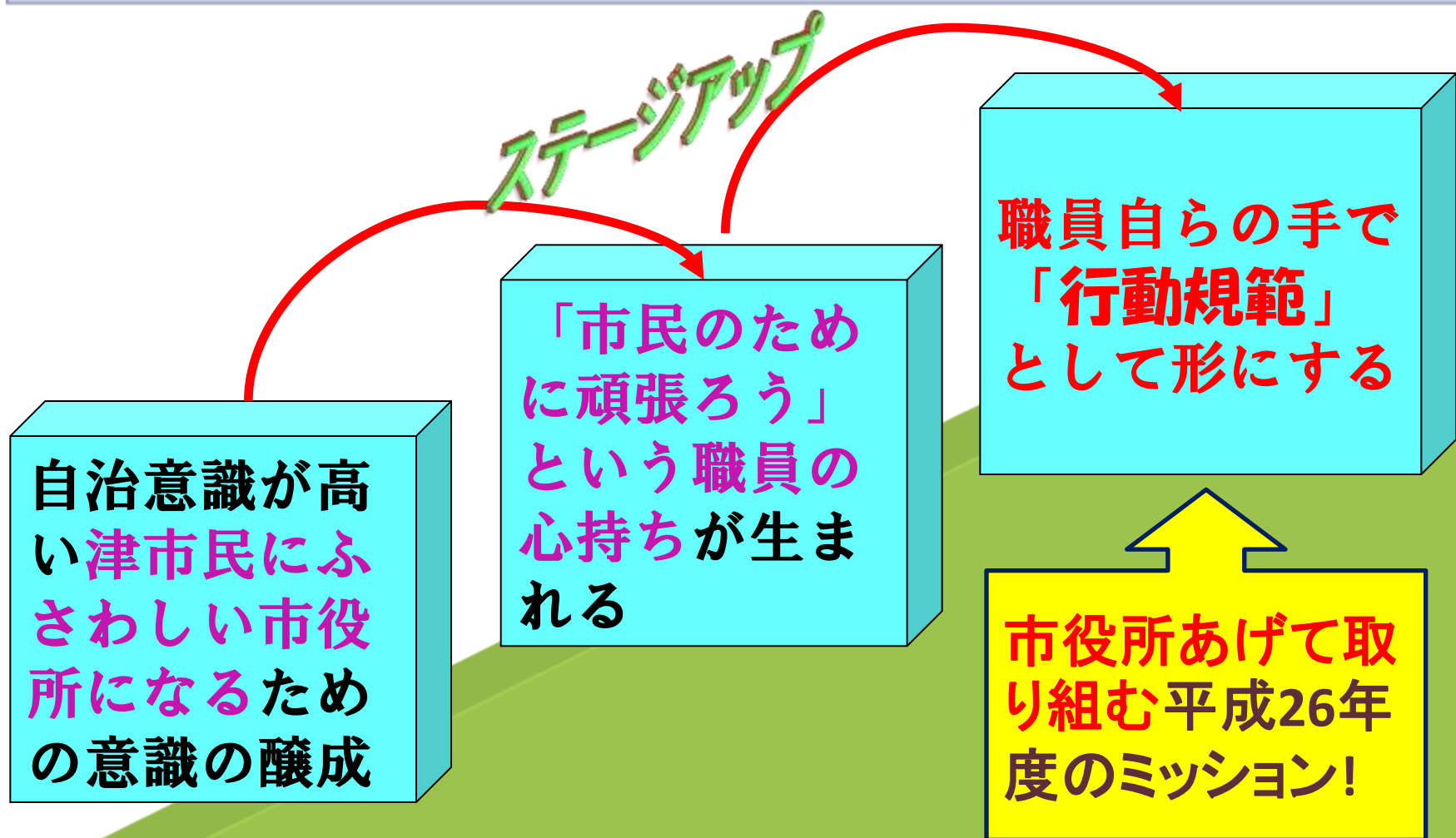
首長

職員



2 市民と市役所

② 「即答・即応し実現する市役所」づくり



即答・即応し実現する市役所へ

